

第4節 将来意識

1. 進学希望段階

【もっとも多かったのが「四年制大学」で69.7%、これに「専門・各種学校」(9.4%)、「大学院」(7.2%)、「短期大学」(5.9%)、「高校まで」(5.0%)が続く。第1回調査と比較すると、第一に四年制大学(以上)希望者の減少(81.5%→76.9%、ただし第2回の数値は、四年制大学に大学院を加えてある)、第二に専門・各種学校の増加(6.3%→9.4%)、第三に短大の微減(7.9%→5.9%)、第四に高校までの微増(2.4%→5.0%)がみられる。】(図2-21~23)

Q15

あなたは将来、どの学校まで進みたいですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

先にみたように、高校生にとっての学習は、それ自身内在的な価値をもっているが、他方で、将来生活の展望と密接に結びついた形で意義づけられている。そこで、最後に、将来意識を簡単に見ておこう。

まず希望している学校段階である(図2-21)。全体として、もっとも多かったのが「四年制大学」で69.7%、これに「専門・各種学校」(9.4%)、「大学院」(7.2%)、「短期大学」(5.9%)、「高校まで」(5.0%)が続く。高校までを除くと、今回の調査対象高校生は、ほとんどが何らかの上級学校への進入学を希望している。

この結果を第1回調査と比較してみよう。

今回の調査から、選択肢に「大学院」を加えたために厳密な比較はできないものの、第一に四年制大学(以上)希望者の減少(81.5%→76.9%)、第二に専門・各種学校の増加(6.3%→9.4%)、第三に短大の微減(7.9%→5.9%)、第四に高校までの微増(2.4%→5.0%)である。一般に18歳人口の減少と並行して高等教育志願率の増加傾向が目立つといわれているが、今回の調査ではむしろ四大志望は減少している。これは、もともと学習基本調査の対象高校生がほぼ高等教育への進学を希望する者たちに限定されていたためであると考えてよい。志願率の近年の上昇傾向は、むしろ学習基本調査の対象としていない高校を中心にして生起している現象である。なお、数値の変化自体はわずかながら、専門・各種学校が増加し短大が減少することによって、短大と専門・各種学校の順位が入れ替わり、専門・各種学校は四大に続く第二の進路となった。

性別にみると(図2-22)、男子に四大、大学院が多く、女子に短大、専門・各種学校が多い。高校の進学状況別には(図2-23)、進学率が下がるほど、四大、大学院が減少し、短大、専門・各種学校が増加する。大学院までの進学を希望する者は、準進学校(第3ランク)、就職進学校(第4ランク)では5%に満たないが、進学校(第2ランク)では12.0%、超進学校(第1ランク)では15.8%に達する。

図2-21 進学希望段階(第1回との比較)

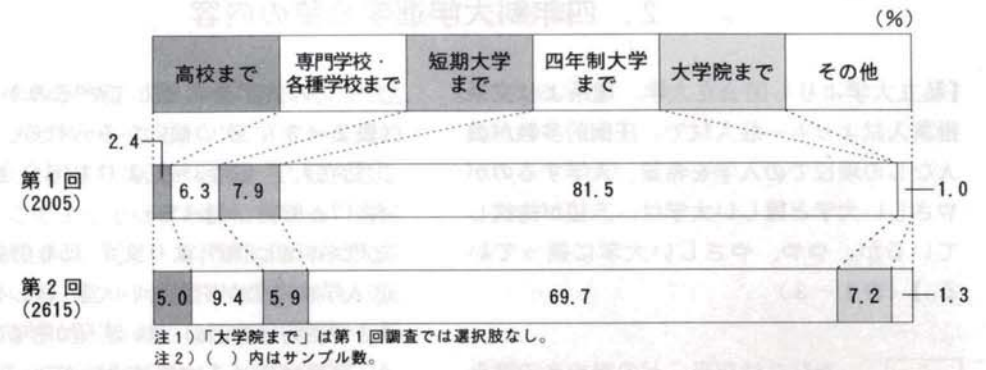


図2-22 進学希望段階(性別)

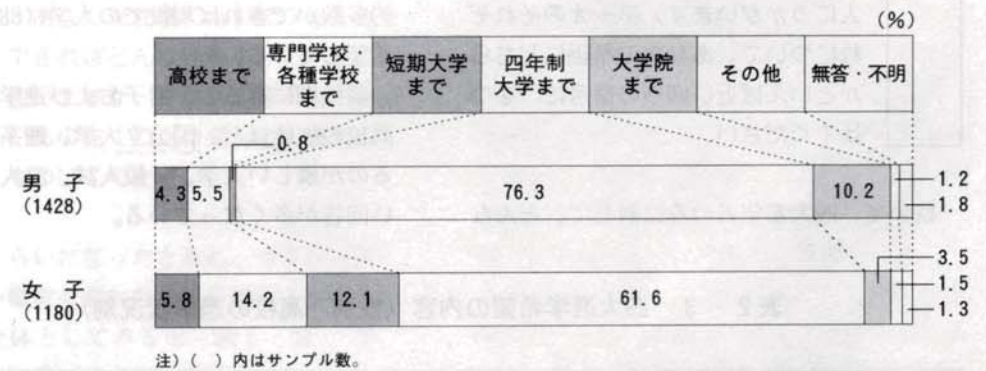
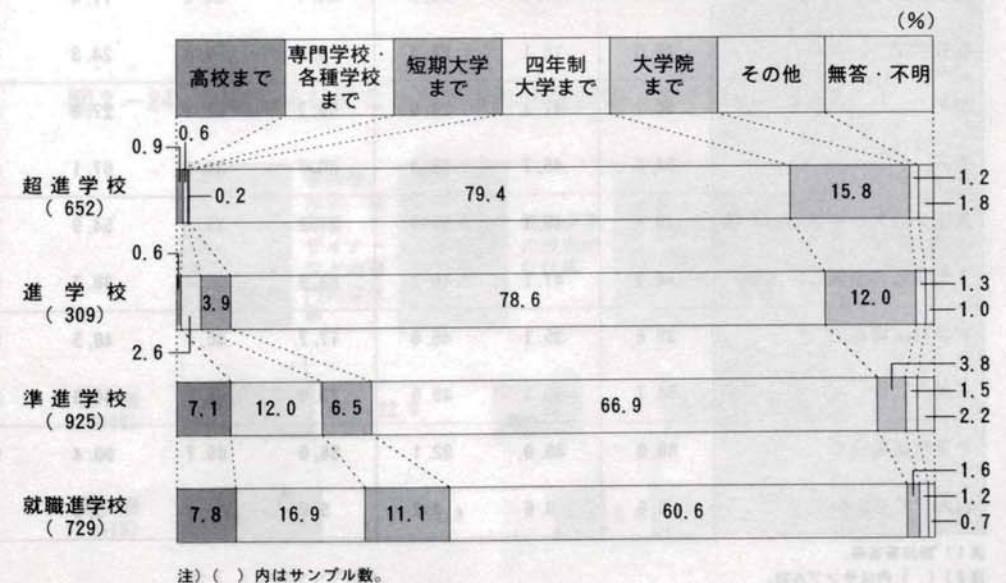


図2-23 進学希望段階(高校の進学状況別)



2. 四年制大学進学希望の内容

【私立大学よりも国公立大学。理系より文系。推薦入試よりも一般入試で。圧倒的多数が浪人なしの現役での入学を希望。入学するのがやさしい大学と難しい大学は、志望が拮抗しているが、やや、やさしい大学に偏っている。】(表2-3)

Q15

あなたは将来、どの学校まで進みたいですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

SQ1. (四年制大学進学希望の人にうかがいます) ア~オのそれぞれについて、あなたの希望にどちらかといえば近いほうの番号に○をつけてください。

続いて、四大希望者のみに対して、どんな

タイプの大学を希望しているのかを尋ねた(表2-3)。次の傾向がみられる。

- ①私立大学(20.3%)よりも国公立大学志望者(73.8%)が多い。
- ②理系(40.2%)より文系(54.0%)が多い。
- ③入学するのがやさしい大学(48.4%)と難しい大学(44.9%)は、志望が拮抗しているが、やややさしい大学に偏っている。
- ④推薦入試(39.6%)よりも一般入試(54.7%)で入学したい。
- ⑤浪人してもよい(5.6%)に対して、圧倒的多数ができれば現役での入学(88.9%)を希望している。

属性別にみると、男子および進学率の高い高校の生徒ほど、国公立大学、理系、入学するのが難しい大学、一般入試、浪人してもよい回答が多くなっている。

表2-3 四大進学希望の内容(性別、高校の進学状況別)

	全体 (2009)	性別		高校の進学状況別			
		男子 (1235)	女子 (768)	超進学校 (621)	進学校 (280)	準進学校 (654)	就職進学校 (454)
国公立大学	73.8	77.0	68.9	84.9	84.6	71.4	55.5
私立大学	20.3	16.1	26.8	6.6	6.8	24.3	41.6
理系	40.2	47.4	28.9	50.7	52.1	27.8	36.3
文系	54.0	45.7	66.9	40.7	39.6	67.1	62.1
入学するのがやさしい大学	48.4	45.1	53.9	27.2	39.3	54.9	73.8
入学するのが難しい大学	44.9	47.7	40.2	63.9	50.4	38.7	24.4
できれば推薦で	39.6	35.1	46.6	17.7	30.7	48.5	62.3
一般入試で	54.7	58.3	49.0	73.9	60.7	46.9	35.7
できれば現役で	88.9	86.9	92.1	86.0	85.7	90.4	92.7
浪人してもよい	5.6	6.6	4.2	5.8	6.1	5.5	5.3

注1) 無回答省略。
注2) ()内はサンプル数。

3. 希望する職業

【第1位が準専門職(30.3%、看護婦、先生、編集者、デザイナーなど)、第2位が伝統的な専門職(18.4%、医者、弁護士、研究者など)で、この2つでほぼ半数に達する。高校生の希望職業は、(準)専門的な仕事に大きく偏っている。第1回調査と比較すると、民間企業の事務的・技術的な仕事と役所や官庁の事務的・技術的な仕事がそれぞれ微減し、その分準専門職(看護婦、先生、編集者、デザイナーなど)が1割弱増加した。】(図2-24、表2-4)

Q16

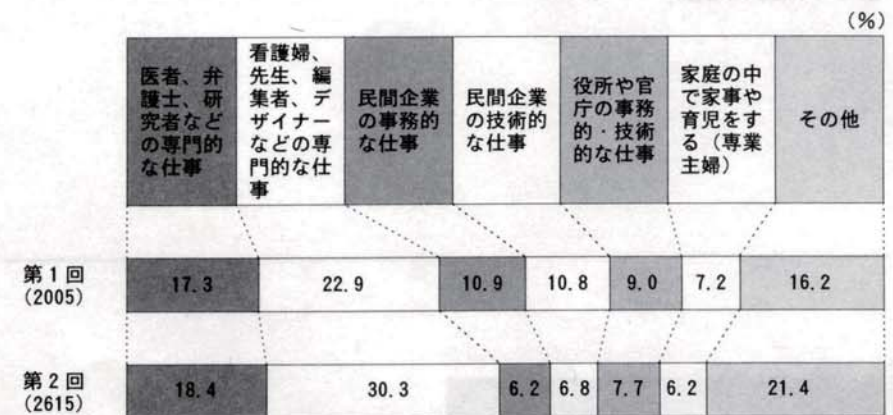
あなたが30歳くらいになったとき、できればどんな仕事をしていたいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

30歳くらいになったときに、できれば就いていたい職業を尋ねた。その他が2割あるものの、全体としてみると(図2-24)、第1位が準専門職(30.3%、看護婦、先生、編集者、デザイナーなど)、第2位が伝統的な専門職(18.4%、医者、弁護士、研究者など)で、この2つでほぼ半数に達する。高校生の

希望職業は、(準)専門的な仕事に大きく偏っているといつてよい。この2つに、役所や官庁の事務的・技術的な仕事、民間企業の技術的な仕事、民間企業の事務的な仕事、家庭の中で家事や育児(専業主婦)が、いずれも数%の水準で続く。現実には彼らが就くことになるだろう職業を考えると、むしろ民間企業の事務・技術職、公務員が(準)専門的な仕事を大きく上回るので、彼らの現時点での希望は、上級学校在学中に、あるいは就職活動の過程で現実の職業構造を目の当たりにして修正を余儀なくされることになる。

第1回調査と比較すると、興味深い変化がみられる(図2-24)。民間企業の事務的・技術的な仕事と役所や官庁の事務的・技術的な仕事がそれぞれ微減し、その分準専門職(看護婦、先生、編集者、デザイナーなど)が1割弱増加した。公務員や企業の「ふつうのサラリーマン」志望が減少し、個性的な準専門職への志望が高まったといえるかもしれない。あえて大胆に推測に推測を重ねていうとすれば、新教育課程における、個性化教育、特に生き方教育が、この変化の背後にはあるのかもしれない。

図2-24 30歳くらいになったときの希望職業(第1回との比較)



注) ()内はサンプル数。

この結果を性別にみると(表2-4)、男子に専門職(医師、弁護士、研究者など)、民間技術職が多く、女子で準専門職、専業主

婦が多い。ただし、女子で専業主婦を希望する者は、13.3%と1割強にとどまっている。

表2-4 30歳くらいになったときの希望職業(性別、高校の進学状況別)

	全体 (2615)	性別		高校の進学状況別			
		男子 (1428)	女子 (1180)	超進学校 (652)	進学校 (309)	準進学校 (925)	就職進学校 (729)
専門職	18.4	24.6	10.8	38.5	27.2	10.8	6.2
準専門職	30.3	21.1	41.4	18.4	24.3	35.4	37.0
民間事務職	6.2	6.3	6.0	5.2	5.8	7.4	5.6
民間技術職	6.8	10.9	1.9	9.0	8.4	3.9	8.0
官庁事務・技能職	7.7	9.9	5.0	9.2	8.7	6.6	7.3
販売職	2.3	2.2	2.3	0.8	1.6	2.3	3.8
職人・技能工	1.5	2.5	0.3	0.5	1.0	1.2	3.2
サービス業	3.7	2.9	4.7	1.5	1.3	4.9	5.3
商店・工場経営	1.9	2.6	0.9	1.2	1.3	2.4	2.1
農林漁業	0.7	0.9	0.4	0.5	1.6	0.9	0.3
専業主婦	6.2	0.4	13.3	2.0	5.8	7.5	8.5
その他	11.3	12.1	10.3	10.0	11.3	13.6	9.6
無答・不明	3.1	3.5	2.5	3.2	1.6	3.4	3.2

注) () 内はサンプル数。